



# セーフコミュニティ通信 第31号

2022(令和4)年12月発行

セーフコミュニティ郡山  
2018.2.2 国際認証取得



## 国際基準の安全・安心なまちづくり セーフコミュニティ再認証が内定しました！



郡山市は2018年2月にセーフコミュニティ国際認証を取得しましたが、5年毎に再認証のための申請が必要となります。今年度、認証後5年間における地域の状況の変化、活動の継続性、取組の評価の状況などを海外認証審査員に審査いただく現地審査を11月8日(火)から10日(木)の3日間にわたり、オンラインで実施しました。

結果、認証のための7つの指標が満たされていると判断され、セーフコミュニティ再認証の内定を受けることができました。



▲ 3か国とつなぎ同時通訳

◀ 審査員講評終了後



### 審査員のみなさん



ミカエル・グリヴナ氏

(アラブ首長国連邦)

・アラブ首長国連邦大学  
医学健康科学部 教授

ジョンイ・ペ氏

(韓国)

・インジェ大学教授  
看護学部長 他



マイケル・ウィルソン氏

(フィンランド)

・トゥールー大学 講師 他



### 2014年より

本市のセーフコミュニティ活動をご支援いただいている日本セーフコミュニティ推進機構代表理事の白石陽子氏に通訳とアドバイザーを務めていただきました。



白石陽子氏

### 認証のための7つの指標

- 1 分野の垣根を超えた協働による推進組織
- 2 全ての年齢・性別・環境・状況を対象とする長期的、継続的なプログラム
- 3 ハイリスクの集団・環境に着目し、弱者グループを対象としたプログラム
- 4 入手・活用可能な「根拠」に基づいたプログラム
- 5 外傷の頻度と原因を記録するプログラム
- 6 プログラム・プロセス・効果を測定・評価
- 7 国内外のセーフコミュニティネットワークへの継続的参加

開会式・市長挨拶



全体説明



発表者 寺西寧委員長

外傷サーベイランス委員会

質疑  
応答

- Q. 委員会のスタンスと、各取組をすすめるにあたってサポートできたことは？
- A. 委員会として重視したことは、データの信憑性に対して検証・助言し、郡山市で起こる社会現象の中でどんな効果かでているか正確に検証すること。難しい課題であったが、ある程度の結論を出し、サポートすることができた。

意見

- 郡山市の強みは多種多様なデータを活用しているところであり、当委員会は核となる存在である。

交通安全対策委員会

質疑  
応答

- Q. 2014年以降、非常に大きく交通事故件数が減少しているが大きな要因はなにか。
- A. 対策委員会の取組のほか、関係機関、団体が一体となって連携して取り組んだ結果と思われる。
- Q. 何が要因で事故件数が全国より低いのか。
- A. 10年前に比べると市民の意識が変わった。各種団体の活動の結果が郡山市の事故減少に繋がっていると考えている。



発表者 安部賢児委員長



発表者 吾妻利雄委員長

こどもの安全対策委員会

質疑  
応答

- Q. 家庭内事故減少のための保護者対象の調査はどう実施するのか。何を具体的に知りたいのか。
- A. 家庭内の事故については、救急搬送データやSCの市民意識調査を参考にしているので保育所の取っているデータと比較できるようなものにしたい。

意見

- どんな条件・状況が重なってけがになるのか分かることで予防に繋がる。情報の収集は大切なこと。

高齢者の安全対策委員会

質疑  
応答

- Q. 郡山市では高齢者が安全で健康に過ごすためにどのような仕組みがあるか。その中での対策委員会の役割は。
- A. 郡山市では、介護予防の観点と見守り、元気高齢者の活用という両面から高齢者施策を推進し、SDGsの未来都市計画を定め各種課題解決のための取組を実施している。その施策において当委員会は高齢者の安全対策を担う役割であると考えている。

意見

- 高齢化は世界的な流れであり、SCの取組を通して高齢者の安全を向上させるということは世界の安全性を向上させることに繋がる。



発表者 藤本マチ子副委員長

## 自殺予防対策委員会



発表者 川上一之委員長

質疑  
応答

- Q. ゲートキーパーでは何を学ぶのか。
- A. ゲートキーパーは、気づく、話を聞く、つなぐ、見守るという4つの行動をする人であることを学ぶ。眠れない、食欲が落ちているという様子に気づくということが大事である。

意見

- ・若い世代の力強いコメントもあり、充実した報告だった。
- ・それぞれの世代ごとにピンポイントに窓口の情報を提供することで、相談件数の増加に繋がるのではないかと。

## 防犯対策委員会

質疑  
応答

- Q. 郡山市の客引きは違法行為なのか？
- A. 郡山市では条例を制定しており、風俗営業等に関する客引き行為に関しては条例で規制している。
- Q. DVによるシェルターやホットラインのサービスはあるか。
- A. シェルターについては福島市にある支援センターがそれにあたり、直接連絡するか、郡山市を通して支援センターにつなぐという方法を取っている。各種相談窓口を利用することもできる。



発表者 上田敬史委員長

## 防災・環境安全対策委員会

質疑  
応答

- Q. 災害対応の経験値が高い郡山市において、他自治体や国にSCに取り組んだ中でよかったことを事例を交えて教えてほしい。
- A. 例えば、毎度防災計画を改定したり、常に更新していること。また災害時の市民の避難方法を調査し、車での避難が多い現状を踏まえ車中避難スペースを確保した。

意見

- ・自助一人ずつの備えも大事だがその中で郡山市が力を入れている共助がこれからさらに大切である。



発表者 國分晴朗委員長

## 閉会式



審査員より  
5年間の活動が評価され、  
再認証取得の内定を受ける  
ことができました！



再認証式は  
令和5年2月を予定しています！

## 審査員講評

- 新型コロナウイルスの感染や自然災害の被害に遭われ、大変である中でもSCを進めその成果を報告いただいた。
- 行政だけでなく、分野や組織を超えた地域の団体等が協働し、根拠に基づいた課題の選定と課題解決に向けた取組を行い、成果を出しているところが素晴らしかった。
- データを分析する客観的な視点と、地域の方の経験に基づいた主観的な視点の両面から活動を評価し、成果を数字で分かりやすく市民へフィードバックしながら、しっかりとPDCAサイクルを回し、前に進めている。
- 郡山市のSCの強みの一つは、データ収集と分析を担う外傷サーベイランス委員会の仕組み。もうひとつの強みは、立場等が異なる民間企業が安全なまちづくりに向けて、主体的・積極的に関わっていることである。
- これから次の5年をどうしていくかビジョンが大切になるので、何を重点課題にするか改めて振り返り、具体的な道しるべを作るべきである。

# 第5回地域診断を実施しました！

セーフコミュニティの取組は、地域の実情をデータを用いて客観的に評価することから始まります。

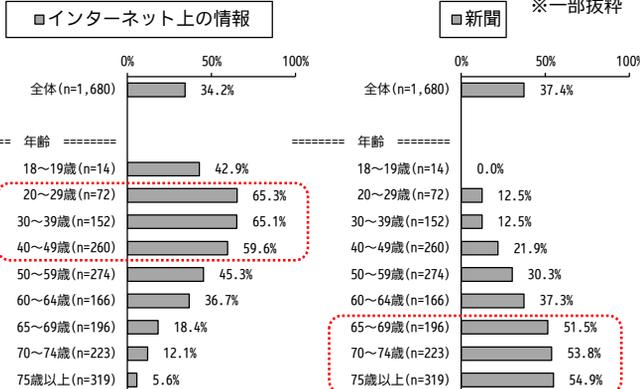
令和4年度は第5回地域診断を実施し、統計データの収集や市民意識調査アンケートによって、郡山市におけるけがや事故などに関する状況を分析しました。

市ウェブサイトにて詳しい結果について掲載しています。

例えば、市民意識調査から、若者の方がインターネット上の情報を、高齢者の方が新聞からの情報を得ている割合が高いことが分かるよ。結果を基に、世代ごとの情報提供の媒体を変えるなど工夫していくよ！



Q.あなたは普段、こういったところから安全・安心に関する情報を得ていますか？



## ヒートショックに気をつけましょう！

入浴中の事故による救急事案は、急病のほか溺水や転倒など一年を通して発生していますが、特に冬季間はヒートショックとみられる症状による救急事案が増加する傾向にあります。

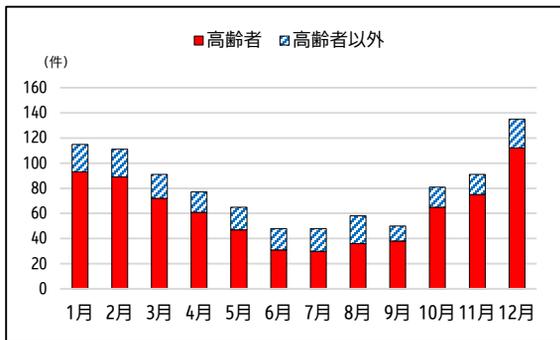
ヒートショックとは、暖かい部屋から寒い部屋への急激な温度の変化が身体に与える影響のことをいいます。

郡山地方広域消防組合は、けがなどを予防する『予防救急』に取り組んでいます。



高齢者が救急要請件数全体の77.2%を占め、非常に多くなっています。高齢者の場合は重症化する可能性が高いことから、事前の予防と対策が必要です！

### ◆ 入浴中の事故による救急要請件数 (2017~2021年累計)



情報提供：郡山地方広域消防組合

### — 特に注意が必要な人 —

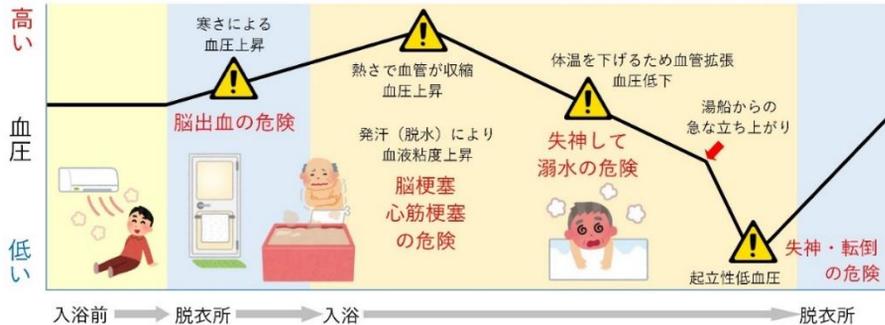
- ◆ 65歳以上の高齢者
- ◆ 高血圧の人
- ◆ 動脈硬化のある人
- ◆ 肥満気味の人
- ◆ 飲酒後に入浴する習慣がある人
- ◆ 熱いお風呂が好きな人

など

このような血圧の急激な変動によって脳梗塞や心筋梗塞を発症したり、失神によって溺れたり、転倒したりするリスクがあります。



### ◆ 入浴時の血圧の変動



### — 予防のポイント —

- ◇ 部屋の温度差を小さくする
- ◇ お風呂のお湯は41℃以下でかけ湯やシャワーでゆっくり身体を暖める
- ◇ 浴槽から急に立ち上がらない
- ◇ 飲酒後は入浴しない
- ◇ 入浴前後に水分補給
- ◇ 入浴時は家族にひと声かける



発行 郡山市セーフコミュニティ推進協議会 / 2022(令和4)年12月

【お問合せ・連絡先】

事務局：郡山市市民部セーフコミュニティ課セーフコミュニティ推進室（郡山市役所西庁舎3階）

電話 024-924-2151 ファクシミリ 024-921-1340

メールアドレス safecommunity@city.koriyama.lg.jp

